
FUJITSU Hybrid IT Service

FJcloud-O IaaS

Red Hat

OpenShift Container Platform 4

注意事項

6.0 版

目次

本書をお読みになる前に	3
1. 注意事項	9
1.1 Satellite サーバー利用時のクライアント証明書の更新	9
修正履歴	12

本書をお読みになる前に

■ 本書の目的

本書は FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS 上で Red Hat OpenShift Container Platform を利用するうえでの注意事項です。

本書は、以下の製品を対象に説明しています。

- Red Hat OpenShift Container Platform 4.8
- Red Hat OpenShift Container Platform 4.9
- Red Hat OpenShift Container Platform 4.10
- Red Hat OpenShift Container Platform 4.11
- Red Hat OpenShift Container Platform 4.12

■ 本書の読者

本書の読者は FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS 上で Red Hat OpenShift Container Platform の構築、運用および保守する方を想定しています。また、FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS 上で仮想ネットワーク、仮想ストレージ、仮想サーバー、ロードバランサーの作成および設定ができること、DNS サーバー、HTTP サーバー、NFS サーバーの作成および設定ができること、Red Hat 認定システム管理者(RHCSA)を取得または同程度のスキルと知識を保有していることを前提としています。

■ 注意事項で記載される情報

注意事項として次の情報を記載しています。

注意事項	留意事項	● リスク（トラブルなど）を引き起こす可能性のある機能やコマンドの使い方に関する留意事項
	非互換項目	● マイナーリリース間の非互換情報
	推奨	● 推奨する使用方法（パラメーターの設定など）
	障害情報	● 富士通が検証などで検出した未解決障害に関する留意事項

■ 本書の構成

本書の構成を以下に示します。

章	内容
1. 注意事項	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS 上の Red Hat OpenShift Container Platform4 の注意事項を説明しています。

■ 製品表記



本書では、以降の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Red Hat OpenShift Container Platform	RHOCP
Red Hat OpenShift Container Platform 4. <i>n</i> (注)	RHOCP4
Red Hat Enterprise Linux	RHEL
Red Hat Enterprise Linux 7. <i>n</i> (for Intel64) (注)	RHEL7
Red Hat Enterprise Linux 8. <i>n</i> (for Intel64) (注)	RHEL8
FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS	IaaS
Red Hat Satellite	Satellite

注) "*n*"にはマイナーリリースを示す数字が入ります。

■ 本文中の記号

本文中では、次の記号を使用します。

 重要	使用上の注意点や、してはいけないことを説明しています。必ずお読みください。
 POINT	理解を助けるための補足情報などを説明しています。必要に応じてお読みください。
『』	関連したマニュアルを示しています。

任意のアルファベットまたは数字を次のように表記します。

<i>A</i>	この文字列が表記されている箇所には、任意のアルファベットが表示されることを意味します。
<i>n</i>	この文字列が表記されている箇所には、0-99 の数字が表示されることを意味します。

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記します。

- ユーザー可変(ユーザー環境により異なる)文字列

次のように<>で括って表記します。

```
# e2label <device 名> <ラベル名>
```

- 追加/変更対象文字列

次のように、太字で表記します。

```
NETWORKING=yes  
HOSTNAME=<ホスト名>  
...  
VLAN=yes
```

- 説明を有する文字列

次のように、文字列に下線を引き、枠外に説明文を記述します。

```
# mount LABEL=/backlabel /backup
```

下線部分はラベル名です。

- コマンドの実施ユーザー

次のように、コマンドプロンプトとして # と記述しているコマンドは、サーバーの管理者アカウントで実施します。

```
# ssh-keygen
```

一般的な管理者アカウントである root ユーザーへの切り替えは以下のコマンドで実施します。

```
$ sudo su -
```

■ 関連ドキュメント

目的・用途に合わせて、以下の関連ドキュメントもお読みください。

- Red Hat 社から公開されているドキュメント

RHOCP に関するドキュメントが公開されています。以下の URL より参照してください。

<https://access.redhat.com/documentation/>

ドキュメント名称	概要	本書での表記
OpenShift Container Platform 4.n Building applications	RHOCP4 利用者(コンテナアプリケーション開発者)としてのアプリケーションの各種設定を説明しています。	『Building applications』
OpenShift Container Platform 4.n Images	RHOCP4 利用者としてのコンテナイメージの管理を説明しています。	『Images』

- SupportDesk-Web サイトで公開されているドキュメント

RHOCP に関するドキュメントが公開されています。

以下の URL より参照してください。参照には、SupportDesk 契約が必要です。

<https://eservice.fujitsu.com/supportdesk-web/>

ドキュメント名称	概要	本書での表記
Red Hat OpenShift Container Platform 4 ソフトウェア説明書	RHOCP4 の利用方法を説明しています。	『RHOCP4 ソフトウェア説明書』
Red Hat OpenShift Container Platform 4 制限事項／注意事項	RHOCP4 を利用するうえでの制限事項や注意事項を説明しています。	『RHOCP4 制限事項／注意事項』

- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O サイトで公開されている IaaS 関連のドキュメント IaaS に関するドキュメントが公開されています。
以下の URL より参照してください。

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/jp/iaas/index.html>

ドキュメント名称	概要	本書での表記
機能説明書	IaaS で提供されている機能を説明しています。	『IaaS 機能説明書』
IaaS ポータルユーザズガイド	IaaS ポータルの操作方法を説明しています。	『IaaS ポータル ユーザズガイド』

IaaS 上で利用する RHOC4 に関するドキュメントが公開されています。

以下の URL より参照してください。

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/jp/iaas/rhocp.html>

ドキュメント名称	概要	本書での表記
IaaS RHOC4 スタートガイド	IaaS で RHOC4 を利用するための環境構築手順を説明しています。	『IaaS RHOC4 スタートガイド』
Red Hat Satellite 用設定情報	Satellite サーバーの設定情報を説明しています。	『Red Hat Satellite 用 設定情報』
IaaS RHOC4 用設定情報	RHOC4 のコンテナアプリケーションプラットフォームの構築に使用する設定情報を説明しています。	『IaaS RHOC4 用 設定情報』

■ 輸出管理規制について

本書を輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

■ 商標

- Red Hat、Red Hat Enterprise Linux、RHEL、Red Hat Enterprise Linux CoreOS、RHCOS、Red Hat OpenShift Container Platform、OpenShift は、米国およびその他の国において登録された RedHat, Inc.の商標です。
- Linux®は米国及びその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。
- Intel は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。
- そのほか、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

なお、本書に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(™または®)を付記していません。

Copyright FUJITSU LIMITED 2020-2023

1. 注意事項

FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS(以降、IaaS)上の Red Hat OpenShift Container Platform(以降、RHOCP)を利用する際の注意事項を説明します。

1.1 Satellite サーバー利用時のクライアント証明書の更新

Satellite サーバーから RHEL のコンテナイメージに RHEL の rpm パッケージをインストールする設定をした場合、クライアントサーバーのクライアント鍵とクライアント証明書が更新された後、コンテナアプリケーションプラットフォームにクライアント鍵とクライアント証明書は更新されません。

■ 詳細情報

『IaaS RHOCP4 スタートガイド』の「付録 A RHEL コンテナイメージへのパッケージの追加」を参照して、Satellite サーバーから RHEL のコンテナイメージに RHEL の rpm パッケージをインストールする設定をした場合、クライアントサーバーでクライアント鍵とクライアント証明書が作成されます。

Satellite サーバーでサブスクリプションの更新作業が実施されると、クライアントサーバーのクライアント鍵とクライアント証明書は更新されますが、コンテナアプリケーションプラットフォームに設定したクライアント鍵とクライアント証明書は更新されません。そのため、コンテナアプリケーションプラットフォームで更新後のクライアント鍵とクライアント証明書の再設定をしてください。

なお、クライアント鍵とクライアント証明書は、クライアントサーバーで管理者アカウントに切り替え後、以下のコマンドで確認できます。

```
# ls /etc/pki/entitlement
```

それぞれ以下のようなファイル名です。

- ・クライアント鍵: <数列>-key.pem
- ・クライアント証明書: <数列>.pem

■ 対処方法

本手順で示すコマンドの実施およびファイルの修正はすべてクライアントサーバーで実施してください。

サーバーの管理者アカウントに切り替え後、『IaaS RHOC4 スタートガイド』の「A.1 Satellite サーバーの情報の取得」で作成したリポジトリファイルを以下のとおり、修正してください。

[RHEL7 の rpm パッケージをインストールする場合の satellite.repo]

```
[rhel-7-server-rpms]
name = Red Hat Enterprise Linux 7 Server (RPMs)
baseurl = <リポジトリURL>
gpgcheck = 0
enabled = 1
sslverify = 0
sslclientkey = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント鍵>
sslclientcert = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント証明書>
```

[RHEL8 の rpm パッケージをインストールする場合 satellite.repo]

```
[rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms]
name = Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream (RPMs)
baseurl = https://rh-satellite.jp-west-2.cloud.global.fujitsu.com/pulp/repos/FUJITSU_Cloud_Service/Library/content/dist/rhel8/8/x86_64/appstream/os
gpgcheck = 0
enabled = 1
sslverify = 0
sslclientkey = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント鍵>
sslclientcert = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント証明書>

[rhel-8-for-x86_64-baseos-rpms]
name = Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS (RPMs)
baseurl = https://rh-satellite.jp-west-2.cloud.global.fujitsu.com/pulp/repos/FUJITSU_Cloud_Service/Library/content/dist/rhel8/8/x86_64/baseos/os
gpgcheck = 0
enabled = 1
sslverify = 0
```

```
sslclientkey = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント鍵>
sslclientcert = /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント証明書>
```

以下のコマンドを実施し、プロジェクトを変更します。

```
# oc project <プロジェクト名>
```

『IaaS RHOC4 スタートガイド』の「A.2 Satellite サーバーを利用したパッケージの取得」で作成したプロジェクト名を指定してください。

リポジトリファイルを修正した任意のディレクトリーに移動し、以下のコマンドを実施し、プロジェクトに保存したリポジトリファイルを更新してください。

```
# oc set data cm/yum-repos-d --from-file ./satellite.repo
```

以下のコマンドを実施し、プロジェクトに保存したクライアント鍵とクライアント証明書を削除してください。

```
# oc delete secret generic etc-pki-entitlement
```

以下のコマンドを実施し、更新後のクライアント鍵とクライアント証明書を適用してください。

```
# oc create secret generic etc-pki-entitlement \
--from-file /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント鍵> \
--from-file /etc/pki/entitlement/<更新後のクライアント証明書>
```

修正履歴

版数と変更の内容を説明します。

版数	変更日	変更箇所	修正概要
1.0 版	2021 年 5 月 20 日	全章	1.0 版作成
2.0 版	2021 年 9 月 15 日	本書をお読みになる前に	RHOCP4.5 サポート終了に伴う記事削除 RHOCP4.8 サポート開始に伴う記事更新
3.0 版	2021 年 12 月 1 日	本書をお読みになる前に	RHOCP4.9 サポート開始に伴う記事更新
4.0 版	2022 年 4 月 20 日	本書をお読みになる前に	RHOCP4.10 サポート開始に伴う記事更新
5.0 版	2022 年 10 月 3 日	本書をお読みになる前に	RHOCP4.7 サポート終了に伴う記事削除 RHOCP4.11 サポート開始に伴う記事更新
6.0 版	2023 年 3 月 1 日	本書をお読みになる前に	RHOCP4.6 サポート終了に伴う記事削除 RHOCP4.12 サポート開始に伴う記事更新